



JFE

JFE304FL

ステンレス縞鋼板

JFE STEEL STAINLESS

304FL

THE FLOOR PLATE



JFE STEEL STAINLESS

ステンレス縞鋼板

縞鋼板の未来を創ります。 JFE スチールのステンレス 縞鋼板。

ステンレス縞鋼板製造のパイオニアとして歩んできた50年におよぶキャリア、
そしてその間に積み上げてきた豊富なノウハウ。

そこから生み出されるステンレス縞鋼板は、当社の長年にわたる普通鋼の縞鋼
板製造の経験をもとに各界のさまざまな要求にこたえて開発したものです。

明日をリードするJFEスチールのステンレス縞鋼板は、確かな技術に裏付けら
れた性能で皆さまのご要望にお応えします。



※表紙のフロアプレートはイメージ写真のため、実物の色彩とはことなります。

THE FLOOR PLATE 304 FL

■主な用途

- 食品工場の床、道路、階段。
- 化学プラントの階段、架台。
- 特殊車の床、ステップ。
- 建物の内外装、非常階段。
- その他土木工事などの仮設敷板。

■特長

- 1 選りすぐられた原料を使用し、厳しい品質管理のもとで製造されますので、安定した化学成分機械的性質を持っています。
- 2 耐久性にすぐれていますので、化学プラント、食品製造プラントなどといった厳しい腐食環境下での用途に適しています。
- 3 美しい表面仕上がりは建築物など装飾的要素が求められる用途にも適しています。
- 4 塗料が不要ですので、メンテナンスに余計な手間がかかりません。
- 5 耐摩耗性にすぐれていますので、シャープな縞目部分の摩耗が少なく滑り止めの効果が大きくしかも耐久性に富んでいます。
- 6 単位面積当たりの強度が高いので普通鋼使用の縞鋼板に比べ重量が軽減できます。

304FL THE FLOOR PLATE

標準寸法と質量

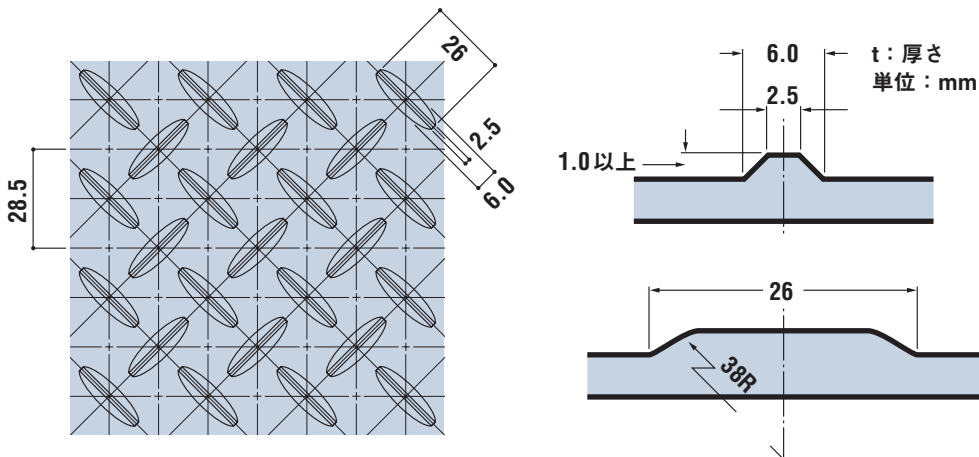
厚さ (mm)	単位重量 (kg/m ²)	幅 × 長さ (mm)						
		1000 × 2000	1000 × 4000	1219 × 2438	1219 × 3048	1219 × 4000	1524 × 3048	1524 × 4000
2.5	21.76	43.5	87	64.7	80.8	106	—	—
3.0	25.72	51.4	103	76.4	95.6	125	—	—
3.5	29.69	59.4	119	88.2	110	145	138	181
4.0	33.65	67.3	135	100	125	164	156	205
4.5	37.62	75.2	150	112	140	183	175	229
6.0	49.51	99	198	147	184	241	230	302

$$W = 7.93t + 1.93$$

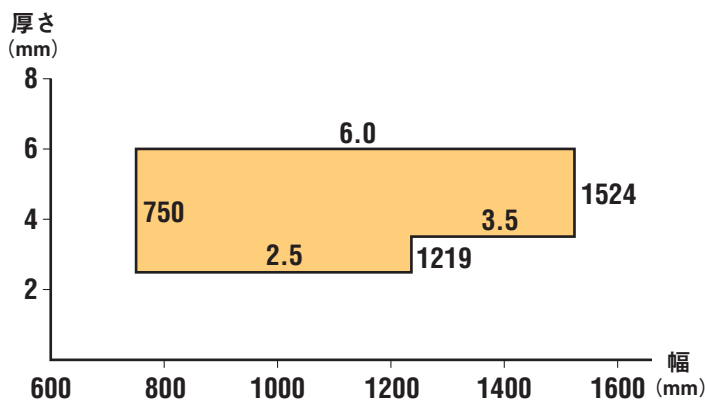
[W:単位質量(kg/m²)、t:板厚(mm)、1.93:山の質量] (注)数値の丸め方、JIS Z8401(数値の丸め方)による。

■上記以外の寸法についてもご相談に応じます。

形状



製造寸法



■標準以外の寸法についてもご相談に応じます。

長さは、6100mm以下を標準としますが、これ以上の長さの場合もご相談に応じます。

製造規格

規格記号	仕上げ記号
JFE 304	FL

■表面仕上げは、焼鈍・酸洗仕上げです。
エッジはカットエッジで納入いたします。

化学成分

(単位：%)

規格	C	Si	Mn	P	S	Ni	Cr
JFE 304	≦ 0.08	≦ 1.00	≦ 2.00	≦ 0.045	≦ 0.030	8.00~10.05	18.00~20.00

機械的性質

引張強さ (N/mm ²)	伸び (%)	硬さ (HRB)
≧ 520	≧ 40	≦ 90

物理的性質

比重	比熱	熱伝導率	熱膨張係数	ヤング率×10 ³
g/cm ³	0~100℃ Cal/g・℃	100℃ 10 ⁻² Cal/cm・sec・℃	0~100℃ 10 ⁻⁶ /℃	N/mm ²
7.93	0.12	3.88	17.3	193

寸法許容差

厚さ許容差

(単位：mm)

製品幅 製品厚	1000未満		1000以上 1250未満		1250以上 1600未満	
	＋値	－値	＋値	－値	＋値	－値
2.50以上 3.15未満	0.30	0.30	0.35	0.35	0.40	0.40
3.15以上 4.00未満	0.35	0.35	0.40	0.40	0.45	0.45
4.00以上 5.00未満	0.40	0.40	0.45	0.45	0.50	0.50
5.00以上 6.00未満	0.50	0.50	0.55	0.55	0.60	0.60
6.00以上 8.00未満	0.60	0.60	0.65	0.65	0.65	0.65

幅の許容差

(単位：mm)

長さ	許容差
3500以下	+5 -0
3500超え 6000以下	+15 -0
6000超え	+20 -0

長さの許容差

(単位：mm)

長さ	許容差
3500以下	+10 -0
3500超え 6000以下	+15 -0
6000超え	+30 -0

1. 製品及び会社情報

製品名称: ステンレス鋼板及び鋼帯

会社情報: 会社名 JFEスチール株式会社
 住所 東京都千代田区内幸町2-2-3
 日比谷国際ビル
 問合わせ先: 担当部門 東日本製鉄所 商品技術部ステンレス室
 電話番号: 043-262-2291/2587
 FAX番号: 043-262-2980
 発行整理番号: Eス-JA-001-08 作成日・改定日 2013/1/15

2. 危険有害性の要約

鋼材としての危険有害性情報はありません。
 なお、以下に示す危険有害性の情報は、鋼材に含まれる元素成分についてのもの、鋼材を溶断、溶接、研磨等の加工を行いヒューム、粉塵等(粉末状態)が生じる場合に注意が必要となります。したがって、鋼材としての危険有害性ではないことにご注意願います。

■GHS分類

<健康に対する有害性>

有害性項目	危険有害性区分	危険有害性情報
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2B	眼刺激 (H320)
呼吸器感受性	区分1	吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ (H334)
皮膚感受性	区分1	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317)
生殖細胞変異原性	区分2	遺伝性疾患のおそれの疑い (H341)
生殖毒性	区分1B	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)
	区分2	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い (H361)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分1	呼吸器、腎臓の障害 (H370)
	区分2	(全身毒性) 臓器の障害のおそれ (H371)
	区分3	(気道刺激性) 気道への刺激のおそれ (H335)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分1	長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、神経系の障害 (H372)

<環境に対する有害性>

有害性項目	危険有害性区分	危険有害性情報
水生環境有害性 (慢性)	区分4	長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ (H413)

■GHSラベル要素

<絵表示又はシンボル>



<注意喚起語>

危険、警告

<注意書き>

【安全対策】

- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと (P202)
- 粉じん/ミストの吸入を避けること (P261)
- 取り扱い後は手をよく洗うこと (P264)
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること (P271)
- 保護手袋を着用すること (P280)
- 換気が不十分な場合は呼吸用保護具を着用すること (P284)

【応急措置】

- 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと (P302+P352)
- 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること (P304+P340)
- 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること (P305+P351+P338)
- 気分が悪い時は医師に連絡すること (P312)
- 皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること (P333+P313)
- 目の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること (P337+P313)
- 呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること (P342+P311)
- 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること (P362+P364)

【廃棄】

- 内容物/容器を国際国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること (P501)

3. 組成及び成分情報

■化学物質/混合物の区別

混合物(鉄を主成分とした固体の合金鋼で安定している)(なお、化学法では「成形品」に当たる)

■主な成分

成分	含有量 [wt%]	CAS番号	化学法 *1 政令番号	安衛法 *2 政令番号
マンガン [Mn]	1.00以下	7439-96-5	1種 412	550
モリブデン [Mo]	10.00未満	7439-98-7	1種 453	603
クロム [Cr]	10.00-40.00	7440-47-3	1種 87	142
銅 [Cu]	10.00未満	7440-50-8	-	379

注1) 成分の含有量は、上表の範囲において規格の種類で異なる。
 注2) 上記の主要成分の他に、炭素[C]、リン[P]、硫黄[S]、窒素[N]等の微量元素を含む。
 *1 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
 *2 労働安全衛生法

4. 応急措置

鋼材の加工等により発生した粉塵/ヒュームを吸入した場合や飲み込んだ場合、また粉塵/ヒュームが皮膚に付着した場合は、下記に示す応急措置の後、必要に応じて医師の診断又は手当てを受けること。

- ◇吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
- ◇皮膚に付着した場合: 作業終了後は多量の水と石鹸で洗う。
- ◇眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
- ◇飲み込んだ場合: 水でよく口の中を洗浄する。
- ◇その他: 鋼材切断端面および切削屑等で皮膚を傷つけた場合は、傷口の清潔を保つ。アーク等により火傷した場合は、患部を冷やす。

5. 火災時の措置

鋼材は不燃性(固体)の状態であり、周辺の火災時にも消火器・水による消火を行っても問題ない。ただし、微粉は燃焼、爆発性を有する場合がある。
 ◇消火剤: 火災の状況に適した消火剤を使用する。
 ◇使ってはならない消火剤: 情報なし

6. 漏出時の措置

鋼材は固体であり、一般的な環境下では漏出することはないが、鋼材の加工等により発生した粉塵/ヒュームは下記に示す措置を実施すること。
 ◇人体に対する注意事項: 適切な保護具を使用して、粉塵/ヒュームの吸入や眼への侵入を防ぐこと。
 ◇保護具及び緊急時措置: 箇条8(ばく露防止及び保護措置)の保護具を参照のこと。
 ◇環境に対する注意事項: 切断・研磨等の加工で発生した粉塵等は速やかに回収する。
 ◇封じ込め及び浄化の方法及び機材: 鋼材の加工等により発生した粉塵類は、適切な方法で回収した後、漏出を防止すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

■取り扱い

<技術的対策>

鋼材を溶接、溶断又は研磨等の加工を行い、粉塵/ヒューム等が発生する場合は適切な保護具を着用すること。
 また、粉塵/ヒューム等が発生する場合は、必要な局所排気/全体換気を行うこと。

<安全取り扱い注意事項>

重量物の為、転倒、荷崩れ、落下に注意する。
 鋼材の切断端面および切削屑等は、「バリ」「カエリ」などにより皮膚を傷つける場合がある。
 溶接、溶断等にとまなうアークは火傷を起こす場合がある。
 結束及び梱包フープ(バンド)の切断時に、フープの跳ね返りやフープ先端に注意を要する。特にコイル製品の場合には、コイル先端が跳ね上がる可能性があるため安全には十分な留意を要する。

■保管

<安全な保管条件 *1>

水漏れ、酸、アルカリもしくはそれらを含んだ物質との接触を避けること。
 高温多湿の環境を避ける。必要であれば、雨水浸透防止、錆防止のためのシート、カバー、梱包等を行うこと。

*1 鋼材品質の劣化を防止するための措置で、未実施の場合でも危険有害性物質の発生は無い

8.ばく露防止及び保護措置

鋼材は通常の状態では固体であるため、一般的な環境下では暴露防止及び保護措置に関する有用な情報はない。

ただし、溶接・溶断又は研磨、切削等の加工の際はヒュームや粉塵類が発生するので、下記に示す設備対策及び保護措置を実施すること。

■許容濃度		日本産業衛生学会	AGCIH *1
成分	CAS番号	許容濃度 [mg/m ³]	TLVs-TWA [mg/m ³]
マンガン [Mn]	7439-96-5	0.2	0.2
モリブデン [Mo]	7439-98-7	—	10(I) / 3(R)*2
クロム [Cr]	7440-47-3	0.5	0.5
銅 [Cu]	7440-50-8	—	1 (Dusts and mists, as Cu) / 0.2(Fume)

注1) NITE HP/化学物質総合情報提供システム (CHRIP) 検索結果

注2) 表中の“—”は、区分外又は分類できないことを意味する。

*1 American Conference of Governmental Industrial Hygienists : 米国産業衛生専門家会議

*2 (I);Inhalable fraction (R);Respirable fraction

◇ 設備対策：粉塵／ヒューム等が発生する場合、適切な換気対策を実施し作業環境を確保すること。

◇ 保護具：粉塵／ヒューム等が発生する場合、適切な呼吸用保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護衣、安全靴等を着用すること。

9.物理的及び化学的性質

◇ 物理的状态、形状、色など：銀白色の固体

◇ 臭い：金属臭

◇ 融点：1,370℃以上

◇ 比重(相対密度)：7～9g/cm³

◇ 溶解度：水に不溶

10.安定性及び反応性

◇ 安定性：一般の環境下では安定している。

◇ 避けるべき条件：高温との接触を避ける。*1

◇ 混触危険物質：無し

◇ 危険有害性のある分解生成物：溶接・溶断などの加工時に発生するヒューム中に金属化合物が含まれる可能性がある。

*1 鋼材品質の劣化を防止するための措置で、未実施の場合でも危険有害性物質の発生は無い

11.有害性情報

有害性項目	Mn	Mo	Cr	Cu
急性毒性	—	—	—	—
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	—	—	—	—
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2B	—	区分2B	—
呼吸器感受性又は皮膚感受性	—	—	区分1	—
生殖細胞変異原性	—	—	区分2	—
発がん性	—	—	—	—
生殖毒性	区分1B	—	—	—
特定標的臓器毒性,単回ばく露	区分1	区分3	区分2,3	区分3
特定標的臓器毒性,反復ばく露	区分1	—	—	区分1
吸引力呼吸器有害性	—	—	—	—

注1) NITE HP/化学物質関連情報/GHS関連情報検索結果

注2) 表中の“—”は区分外又は分類できないことを意味する。

注3) 区分の情報とは簡条2(危険有害性の要約)を参照のこと。

12.環境影響情報

有害性項目	Mn	Mo	Cr	Cu
水生環境有害性(急性)	—	—	—	—
水生環境有害性(慢性)	区分4	—	—	区分4

注1) NITE HP/化学物質関連情報/GHS関連情報検索結果

注2) 表中の“—”は区分外又は分類できないことを意味する。

注3) 区分の情報は簡条2(危険有害性の要約)を参照のこと。

13.廃棄上の注意

鋼材の切端などはスクラップとしてリサイクル可能であり、廃棄物には該当しない。

加工工程で発生した粉塵等を産業廃棄物として処分する場合、または産業廃棄物を収容した容器、及び鋼材納入時に付随してきた包装材等を処分しようとする場合、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、都道府県または市町村が定める関連条例の規則に従い、適切な方法で処分すること。

14.輸送上の注意

輸送に関する国際規制対象物質に該当しない。

15.適用法令

◇ 労働安全衛生法

◇ 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

16.その他の情報

◇ 参考資料等

- 危険物データブック(東京消防庁警防研究会)
- GHS対応—化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS提供制度(平成24年10月 経済産業省、厚生労働省)
- JIS Z7253:GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)ホームページ
- 職場の安全サイト(厚生労働省)
- 日本産業衛生学会勧告値、OSHA PEL、ACGIH TLV等
- 労働安全衛生法
- PRTR法(特定化学物質の環境への排出量把握等及び管理の改善の促進に関する法律)

本化学物質等安全性データシートは、現時点で入手できる資料、情報に基づいて作成しております。

弊社製品を取扱う事業者は化学的に安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるもので、安全性の保証書ではありません。

取扱う事業者は用途・用法に適した安全対策を講ずることが必要であることをご理解のうえご活用願います。

以上

●ご注文・お問い合わせは、下記または最寄りのJFEスチールまでお寄せください。

東京	東京都千代田区内幸町2丁目2番3号(日比谷国際ビル)	〒100-0011	
	ステンレス・特殊鋼営業部	TEL.03(3597)4028	FAX.03(3597)4035
	千葉市中央区川崎町1番地	〒260-0835	
大阪	東日本製鉄所 商品技術部 ステンレス室	TEL.043(262)2587	FAX.043(262)2980
	大阪市北区堂島1丁目6番20号(堂島アバンザ)	〒530-8353	
	大阪鋼板営業部 ステンレス・特殊鋼室	TEL.06(6342)0729	FAX.06(6342)0731
	東日本製鉄所 商品技術部 ステンレス室(大阪駐在)	TEL.06(6342)0740	FAX.06(6342)0734

JFE スチール 株式会社<http://www.jfe-steel.co.jp>

本 社 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2番3号(日比谷国際ビル) TEL 03(3597)3111 FAX 03(3597)4860

大阪支社	〒530-8353 大阪市北区堂島1丁目6番20号(堂島アバンザ10F)	TEL 06(6342)0707	FAX 06(6342)0706
名古屋支社	〒451-6018 名古屋市西区牛島町6番1号(名古屋ルーセントタワー18F)	TEL 052(561)8612	FAX 052(561)3374
北海道支社	〒060-0005 札幌市中央区北五条西2丁目5番(JRタワー17F)	TEL 011(251)2551	FAX 011(251)7130
東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1番25号(東二番丁スクエア3F)	TEL 022(221)1691	FAX 022(221)1695
新潟支社	〒950-0087 新潟市中央区東大通1丁目3番1号(新潟帝石ビル4F)	TEL 025(241)9111	FAX 025(241)7443
北陸支社	〒930-0004 富山市桜橋通り3番1号(富山電気ビル3F)	TEL 076(441)2056	FAX 076(441)2058
中国支社	〒730-0036 広島市中区袋町4番21号(広島富国生命ビル7F)	TEL 082(245)9700	FAX 082(245)9611
四国支社	〒760-0019 高松市サンポート2番1号(高松シンボルタワー23F)	TEL 087(822)5100	FAX 087(822)5105
九州支社	〒812-0025 福岡市博多区店屋町1番35号(博多三井ビルディング2号館7F)	TEL 092(263)1651	FAX 092(263)1656
千葉営業所	〒260-0028 千葉市中央区新町3番地13(千葉TNビル5F)	TEL 043(238)8001	FAX 043(238)8008
神奈川営業所	〒231-0011 横浜市中区太田町1丁目10番(NGS太田町ビル4F)	TEL 045(212)9860	FAX 045(212)9873
静岡営業所	〒422-8061 静岡市駿河区森下町1番35号(静岡MYタワー13F)	TEL 054(288)9910	FAX 054(288)9877
岡山営業所	〒700-0821 岡山市北区中山下1丁目8番45号(NTTクレド岡山ビル18F)	TEL 086(224)1281	FAX 086(224)1285
沖縄営業所	〒900-0015 那覇市久茂地3丁目21番1号(國場ビル)	TEL 098(868)9295	FAX 098(868)5458

海外事務所 ニューヨーク、ヒューストン、ブリスベン、ブラジル、ロンドン、ドバイ、ニューデリー、ムンバイ、シンガポール、バンコック、ベトナム、ジャカルタ、マニラ、ソウル、北京、上海、広州**お客様へのご注意とお願い**

- 本カタログに記載された特性値等の技術情報は、規格値を除き何ら保証を意味するものではありません。
- 本カタログ記載の製品は、使用目的・使用条件等によっては記載した内容と異なる性能・性質を示すことがあります。
- 本カタログ記載の技術情報を誤って使用したこと等により発生した損害につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本カタログ記載の単位においてN/mm²はMPaと等価です。